田原本町教育委員会

１．重点課題への取組状況

・年度当初に掲げた重点課題に対する具体的な取組

(1) 基本的生活習慣の確立についての取組

○　町広報による啓発活動

毎月、発行される町広報に２ヶ月に一度、食育というコーナーを設け、「すくすく子ども食育プラン」と銘打って子どもにとって食がいかに重要かを訴える一方、料理レシピを紹介している。

○　幼稚園においては「おはよう、おやすみ、お手伝い」や小学校では「早寝、早起き、朝ごはん」などのスローガンを掲げ、学校通信、学級通信や学級懇談など、機会のあるごとに園児、児童・生徒或いは保護者に啓発活動を実施している。

○　あいさつ運動の推進

本町では、目指す子ども像として「感謝の心でいきいきあいさつ　心豊かにたくましく生きる子ども」をスローガンに掲げ教育活動を展開した。当然、各園・校においてはこのスローガンの具現化に向けて、日々教育活動が実践されたことはいうまでもない。具体的には、校長先生をはじめ職員が毎日校門で児童生徒を迎え、朝の挨拶を交わす光景がどの学校でも見られ、このことによって子どもたちが積極的に挨拶ができるようになっている。中学校においては、この運動に生徒会役員や地域保護者会の面々が参加し、より大きな運動へと広がりを見せ、成果を上げている。

(2) 規範意識の醸成に関する取組

○　町広報による啓発活動

毎月、発行される町広報に２ヶ月に一度、教育というコーナーを設け、「すこやか」と銘打って、本教育委員会の管轄下にある、生涯学習課内の町青少年健全育成推進協議会事務局が子育てにおける規範意識育成について、400字程度のコメントを掲載している。

○　町青少年健全育成推進協議会の活動は、町長を会長にすえ、町をあげて青少年健全育成に向けて活動する組織である。学校はもとより、町議会議員、教育委員、社会教育委員、自治連合会、地域警察署等、子どもに関わる幅広い層から構成される協議会となっている。数年前に地域中学校の荒れが顕著になった事態を受け、組織強化とより充実した活動が構築され、現在に至っている。

(3) 希薄化している人間関係改善の取組

○　「体験作文発表会」

小・中学生が日頃の生活での体験から学んだこと、感じたことなどを作文にまとめて発表する。発表内容の多くは、「命」「人と人の絆」に関するもので、発表者と観客が一体となって、「命」や「人と人の絆」について深く考える機会となっている。

(4) 学習場面における取組

新学習指導要領では、言語活動の充実が強く求められている。町内の小学校では、それぞ

れ言語能力の育成に向けた取組を進めている。以下、この取組を紹介する。

○　聞く力を伸ばす取組

町内には、大規模校１校、中規模校２校、小規模校２校、計５校の小学校があり、言語能力の育成に向けた取組は、５校全てで行われている。

また、町内に「田原本町お話しの会」というボランティア団体がある。会員数は23名で、五つの小学校や五つの幼稚園を、月２回定期的に訪問して子どもたちに本の読み聞かせの活動をしている。子どもたちは、楽しみにしており、目を輝かせて聞いている。このような地道なボランティア活動が着実に聞く力を伸ばしている。

○　読む力を伸ばす取組

町内の小・中学校では、各校で工夫した読書活動に取り組んでいる。中でも、中学校においては、数年前、荒れが顕著な時期があり、心を落ち着かせた中で一日の学校生活をはじめさせたいとの思いから、全校体制での「朝読書」の取組が始まった。

数年間の継続的な取組の結果で、今では毎朝「朝読書」をし、静かに一日を開始できるようになった。

○　コミュニケーション力の向上を図る取組

町内における大規模校では、第１・２学年、第３・４学年、第５・６学年の組み合わせを「兄弟学年」と位置付け、別学年の教室を訪ねて詩の音読を披露する「異年齢交流活動」に取り組んでいる。きっかけは、友達との関係を築くことができなかったり、うまく自分を表現できない児童が見受けられたりしたことである。取組は、１時間目の前に読書や自主学習を行っている「ゼロタイム」（15分間）を使って実施されている。今年は「命」について考える詩を選び、各教室ごとに練習し、兄弟学年の教室を訪ねて音読した。

児童は、日常的に接触の少ない他学年の児童に向けて音読するため、どうしたらうまく伝えられるか考えながら取り組み、音読を聞く側も、積極的に聞こうとする姿勢が見られるようになった。

２．調査研究の成果及び今後の課題

・成果等の把握と検証の手立て

(1) 学校評価の活用

学校評価については、各校で現在、取組を推進中で、町教育委員会には学年末に報告がある。町教育委員会としての分析については、提出を待って行うこととしている。

(2) 全国学力・学習状況調査の結果分析（平成23年度は奈良県学習状況調査結果による）

【小学校　学習状況調査より】

平成22年度は５小学校中２校の抽出調査結果、平成23年度は１校の抽出調査結果である。

①　朝食を毎日食べていますか。

平成22年度　82.1％　平成23年度　97.0％

②　学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか。

平成22年度　55.0％　平成23年度　72.7％

③　学校のきまりを守っていますか。

平成22年度　19.2%　平成23年度　48.5%

○　上記の結果分析

数値としては、平成23年度になって数値が上昇し、基本的生活習慣や規範意識に好ましい改善がなされたと見えるが、平成22、23年度の抽出校が違うことから、参考とはならない。同じ町内にある小学校でありながら、上記の数値が表すように、基本的生活習慣や規範意識については、学校間格差が大きいことが判明した。

今後は、各学校ごとに詳細な分析を行い、その学校の実態に応じた取組をマネジメントする必要がある。

【中学校　学習状況調査より】

①　朝食を毎日食べていますか。

平成22年度　75.7%　平成23年度　75.0%

②　学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか。

平成22年度　44.3%　平成23年度　47.2%

③　学校のきまりを守っていますか。

平成22年度　25.2%　平成23年度　44.4%

○　上記の結果分析

中学校の調査結果は、同一学校のデータであり、その数値変化をそのまま、生徒たちの変化と捉えることができる。上記の数値を見る限り、地域・学校が連携して共通目標を立て、取り組んだ成果であると分析する。とりわけ③については、学校の生徒指導が正しく機能している結果、大きく好転したと認識している。この結果に満足することなく、今後とも取組の充実を図っていきたい。また、①については、ほぼ横ばい状態で、家庭での生活習慣を改善することの難しさを感じる。

(3)　推進校の研究の結果と課題の把握と検証

推進校である北小学校では以下のような研究主題を設定し、組織的な取組を推進した。

○　「学力を高める授業の研究」

この主題設定の理由となる児童の実態は、平成22年度「全国学力・学習状況調査」の結果から以下のようなものであった。

「書くこと」について、観点別評価での「書く能力」の正答率は約90%と高いが、「400字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか」という質問に対しては「難しいと思う」「どちらかというと難しいと思う」が77%と全国や奈良県全体より高い数値であった。このことから、書く力はあるものの、書くことが苦手と考えている児童が多いという実態が明らかになった。

※　実施した研修

・１学期　県教育委員会指導主事を招き、校内研修を開催。

内容「新しい学習指導要領における言語活動の充実及び国語科「書くこと」の授業の組み立て方について」

・２学期　県教育委員会指導主事、町教育委員会指導主事を招き、研究授業及び校内研修を開催。

内容「国語科３年　２年生に教えてあげよう　ぼくらの社会見学」

※　実践発表会

・平成24年２月14日（火）奈良県学力向上フォーラムで「書く力を高める授業の研究」として実践発表。また、同フォーラムで開催された、シンポジウムで北小学校長が研究に至った経過や研究の成果を発表する。

※　全校的な取組

・学校だよりで子どもたちから応募した、短作文を掲載し書く意欲を高める。

・学級・学年便りのより一層の充実を図る。

・作文集・詩集の作成を積極的に進める。

・聞き合い・話し合う時間の拡充を図る。

○　推進校の成果と課題

＜成果＞

・到達目標、付けたい力を整理することで、見通しをもって指導できるようになった。

・教員個々の指導を共有することができた。

・児童の書く意欲を高めることができた。

・日記や作文を紹介し合うことで、自己理解・他者理解の場が広がった。

＜課題＞

・他教科等との関連を指導計画に位置付けていくこと。

・体験学習と「書くこと」を結び付けながら自分の考えをもつこと。

・「書くこと」を通して地域や人とのつながりを育てること。